

令和 8 年

自治

県と市町の情報ホットライン

かがわ

vol.
128

発行●(公財)香川縣市町村振興協会 監修●香川県政策部自治振興課
HP●<http://chousonkai.or.jp/shinkou/publication/>

まちづくり最前線/善通寺市

My Town

「都市と地域を結ぶ、想いの架け橋事業」

株式会社Zen 代表取締役 高尾 明香里さん

Top Message

魅力的な関係人口を増やす旅館業の企画とは

地域の元気印/高松市

People

盆栽部「かみんぐ」



苔玉づくり体験や、オリジナルキャラクターなど独自のツールを作成・活用し、高松盆栽を多くの人に広めたいと活動を続ける盆栽部「かみんぐ」。現在は、部員2名とサポートをしてくれる先生1名で活動しており、大々的に部員募集中です。盆栽に興味のある人なら年齢に関係なく入部できます。(左から、梅木崇人先生、越智ひなたさん、代表の亀井遥加さん、オリジナルキャラクターの「ぼんぼん」。)



善通寺市



「関係人口」から「共創する仲間」への発展を目指す

「都市と地域を結ぶ、 想いの架け橋事業」

地方は人口減少による地域づくりの担い手不足に直面しています。こうした課題に対し、地域と多様に関わる「関係人口」に着目し、地域外からの交流人口を増やすことが重要と考えられています。善通寺市では、香川大学および都市圏の大学と連携し、若い世代と地域住民が「共感」を軸に継続的な関係構築を目指す「都市と地域を結ぶ、想いの架け橋事業」を展開。実践的な活動を通じて強固な「絆」づくりに挑んでいます。



自ら大学に赴き、事業に参加する学生を増やそうと奮闘する善通寺市生活産業部商工観光課の天野秀紀係長。

「大学連携推進事業」を ベースに新事業を展開

善通寺市は2019（令和元）年から、香川大学や都市圏の大学と連携した「大学連携推進事業（KBPP）」に取り組んできました。これは、合宿形式で地域課題の解決に取り組むプロジェクトであり、合宿の終了後も、地域と学生との間に継続的な関係が構築されることを期待した事業でしたが、そのような関係性が生まれにくいところに課題を抱えていました。

善通寺市生活産業部商工観光課の天野秀紀係長は、「地域課題の解決の先にある学生と地域住民との『絆』をどう育むか。それが次のステップへの課題でした」と振り返ります。

市は、この課題の解決に向け、従来の

枠組みを広げた「都市と地域を結ぶ、想いの架け橋事業」を企画しました。この事業では、香川大学や都市圏の大学に通う学生を市に招いて農業体験などの地域住民と直接関わる機会を設け、学生はそれらを通じて得た地域への「共感」と「経験」をベースに課題の抽出と解決策の考案を行い、

市内で特産品の販売活動を行います。さらに、その活動で聞いた消費者の声や得られた改善策を地域住民に伝える、これら一連の取り組みを通じて、学生と地域住民との間に「絆」を育み、継続的な関係人口の創出につなげていくというものです。

新事業の利点と成果

この事業の利点は、主に2点あります。

まず、少子高齢化や農業の衰退が進む市の課題に対し、若者の視点を取り入れながら改善策を考案し、実施できる点です。学生は、農作業の苦労や生産者の「想い」に触れ、地域の現状を知ることを通じて、地域に愛着を持ち、「自分事」として課題を受け止め、具体的な解決策を提案していきます。

次に、一番の目的である関係人口の増加が見込まれる点です。この事業は、学生と地域住民とのふれあいに重点を置いており、その中で育まれた愛着や「絆」を、その後の継続的な関係の構築につなげていきます。

本事業は2025（令和7）年7月に開始しました。延べ60名ほどの学生が複数回にわたり市内の農業生産者を訪問し、フィールドワークや農業体験、生産者との



生産者の思いを受け止めることができる地元での交流会。





学生が主体となり、善通寺市の特産品などを販売したチャレンジマルシェ。



学生が自らデザインしたマルシェのツール。



▲パンフレット



▲チラシ

バーベキューなどを重ねて交流を深めました。

11月には東京都の御茶ノ水で実践型のアウトプットの場となる「チャレンジマルシェ」を開催。学生たちは自ら特産品を販売し、消費者に価値提案を行いました。単に調べ発表するのではなく、実際に商品売り、売上や顧客の反応を見る機会を設けることで、学生たちに責任感が芽生えました。学生たちは、主体的にパッケージデザイン、考案や販促ツールの作成、若者視点での新たな観光ツアーの企画、提案を行うなど、マルシェでの体験を通じて、能動的で前向きな行動を起こしていききました。

事業の最後には、マルシェでの経験や消費者の声を生産者にフィードバックし、次なる展開を共に考える機会を設けました。この事業によって、生産者も若い世代からの意見に刺激を受け、Instagramでの情報発信や商品のブランド化に意識を向けるなど、具体的な行動変化を見せるようになりました。

独自のリソースと工夫

この取組みの運営体制には、戦略的な工夫が凝らされていました。それは、コーディネーターを「地方側」と「都市側」のダブル体制としたことです。地方側には地方創生に精通した事業者を、都市側には学生支援に長けた事業者を配置し、双方の調整をスムーズにしました。



本を対話ツールとして活用したワークショップ「ほんのれん」。写真は、学生に企業で働くイメージを感じてほしいと丸善雄松堂本社オフィスで実施した際の様子。

また、市ならではのユニークな工夫として「本」を使った共創ワークショップの実施が挙げられます。善通寺市は、市役所の庁舎内に図書館を有するという全国的にも珍しい特長を持っています。この特長を生かし、思考のきっかけとなる本を選書し、価値観や気づきを共有するための対話ツールとして活用しました。自分の意見ではなく、この本の著者がこう述べているとワンクッションを置くことで、学生が意見を述べる際の心理的なハードルを下げる

ことができ、予想を上回る活発な意見交換が行われました。天野係長は、「じっくりと本に向き合い、それをもとに議論を交わす経験は、社会に出てからも役立つ貴重な経験になったはずです」と語ります。地域課題の解決だけではなく、学生の人材育成や教育の面でも高い効果を挙げることができました。

「強固な継続性の確保」に向けて

学生や地域の生産者の行動に前向きな変化が見られた一方で、課題も明らかに

なりました。一つはスケジュールの調整です。学生の授業や就職活動と、特産品の出荷最盛期やマルシェの開催時期とが重なり調整が困難であったことは、今後の検討課題です。もう一つは、連携の「広がり」への考慮です。市内の商工業者や観光業者など、より広い視野で地域全体を巻き込む工夫が求められます。

今後の最大のテーマについて、天野係長は、「学生と地域とのつながりを一過性で終わらせることなく、深まった『絆』をいかに継続させるかにあります。まずは市に興味を持ってくれる人を確実に増やし続けていきたい」と力強く話します。

最後に他自治体へのアドバイスとして「商工、観光、人材育成は、一つの課だけで完結できるものではありません。複数の部署が連携し、一体となった新たな政策のあり方を考え出すことが必要であると実感しました」と、「政策の横連携」の重要性を語ってくれました。行政内部での新たな関係づくりこそが、関係人口の創出と拡大を実現していくための鍵なのかもしれません。この一連の取組みは、単なる特産品販売イベントではなく、地域と若者、そして行政自身を変革させるための未来への架け橋を構築する試みとなったのです。

KBP：香川大学で行われている「香川と都市圏の大学連携推進事業」が「ほんのれんプロジェクト」の略称。

香川の先進企業の本を探る あの人に会いたい！

株式会社Zen

代表取締役

高尾 明香里さん

目指すは島の人々と共に、
島ならではの感動体験を
創り上げ、関係人口を
増やすことです。
観光を通じて島の魅力に触れ、
感動体験を通じて「ファン」に
なつてもらふことを目指し、
地域と旅行者が
共に育む新たな関係性を創出します。



香川大学在学中の留学経験から世界を視野に事業を展開する若き起業家の高尾明香里さん。「香川県ビジネスチャレンジコンペ2025」で最優秀賞を受賞したのは、瀬戸内に残る価値ある空き家を現代的な感性で再生し、その地域にゆかりのある方々と「共同オーナー」として育てていくプロジェクトです。今回は2024（令和6）年に起業した株式会社Zenにおける旅館業の取組みを伺いました。



▲リノベーション前

匠の技を感じさせる庭や縁側など、元の建物の良さを残しつつ、家具など細部にまでこだわりリノベーションされた「島宿 葉」。

■ 企業理念を教えてください。

明文化された企業理念はまだありませんが、世界に誇るべき香川県の歴史や文化など、潜在的な価値に光を当てて、多くの人々に愛される場所づくりを行う、またそのためのサービスを提供するという思いで事業を展開しています。

■ 事業内容を教えてください。

当社は、元々立派なお屋敷であった建物をリノベーションし、一棟貸しの宿泊施設として貸し出しています。

旅館業自体は、当社の創業以前、10年ほど前の大学在学中に坂出市で始めました。学生時代に2年ほどマレーシアとシンガポールに留学した際に、アプリを使って、宿泊施設や体験の斡旋を行うAirbnb(エアビーアンドビー)が盛んに利用されているのを目にしました。このサービスは今後日本でも当たり前に使われる時代が来ると考え、宿泊業に可能性を感じ、まずは一棟貸しの旅館業を始めました。坂出市の建物は、普通の家屋を簡単にリノベーションして宿泊施設にしたもので、リーズナブルに泊まれる宿ではありませんでしたが、リピーターは見込めないことを学びました。この時培った経験を生かすとともに、

それまで個人事業主として事業を進めてきましたが、多くの方に関心を持っていただくためには信用が必要と考え、株式会社として当社を起業しました。現在は、小豆島を拠点として、所有する小豆島の4棟、坂出市の3棟で事業を行なっています。

将来的には、先ほどお話しした思いの延長線上にあるさまざまな事業に取り組みたいと考えています。

■ 拠点として小豆島を選んだ理由と、事業展開をお聞かせください。

私は3歳の時から祖父母に連れられて小豆島八十八ヶ所霊場を巡っていました。本格的な山岳霊場や鎖場もあり、子どもの頃の私は楽しくて仕方ありませんでした。また、小さな子どもがお遍路をしていると、周りの大人たちがとても親切にしてくれます。この小豆島のお接待文化は素晴らしいと子ども心ながら感じていました。そうした子ども頃の楽しかった思い出と、何より瀬戸内海の島々が持つポテンシャルの高さに惹かれ、小豆島を拠点に事業を展開することを決めました。

事業展開のため、小豆島に移住し宿を運営し始めたのは3年前のコロナ禍の時でした。小豆島で最初に運営



した地は、交通の便も悪く、人手の確保も困難であったため、その場所での展開を諦めました。その後、ご縁があり、かつて島の人々に愛されていたお茶屋さんを受け継ぎ、宿として新たな命を吹き込むことになりました。茶屋の記憶を大切に、趣や佇まいはそのままにして心地よく滞在いただける旅館としての快適さを加えました。本格的な茶室がある立派な建物で「かんながら」という屋号もそのまま使わせていただきました。今では、「かんながら」をはじめ、「島宿 葉」、「わたなみ」、「間はさま」の合計4棟で、お客様をお迎えしており、今後、さらに島で新たに1棟をオープンする予定です。

地域に役立つ場にしてほしいという前オーナーの思いを実現した、1日1組限定の宿「かんながら」。

貴社の特徴や強みなどを教えてください。

何より地域密着というのが強みです。私自身が香川県で生まれ育ち、香川県のことに精通し、強固な地元ネットワークを持っています。

その強みを生かし、単に一棟貸しというのではなく、この地でしか味わえない唯一無二の文化体験などを提供することを心がけています。非日常を味わっていただける環境やサービスにこだわりたいと考え、讃岐の暮らしにつながる、歴史を感じさせる建物を選定し、妥協せず、選ばれ続け、世の中に残る宿を増やしていこうと考えるの下、事業を展開しています。

特に島においては起業をするにも参入障壁が高く、島外や県外の方には難しいという現実があります。良い物件の情報は、容易に手に入るものではありません。その点、私は小豆島に移住し、この地で暮らしています。住んでいけばこそそのネットワークで情報を手に入れたことが何度もありました。例えば「かんから」は、小豆島に住んでいる友人が紹介してくれた物件です。こだわりが紹介してくれた物件です。こだわりには任せたくないという思いがあるのは当然だと思います。

リノベーションを手掛けるのは、人気テレビ番組への出演経験もある建築家・清水康弘氏が率いる建築チームです。そもそも建物の再生には、多額の初期投資と建築や法律に関する高度な専門知識が必要です。個人や異業種が単独で参入するのは難しく、簡単に考えて手をつけると、建物のもともとの良さを損ねることもなかりかねません。清水氏は、センスも技も優れた方で、絶妙の配分でものまま残す場所と新たにリノベーションする場所を決定し、独自の価値ある空間を生み出してくれます。

当社の宿では、ご要望により小豆島ならではの食の提供も行っています。小豆島では、野菜、肉や魚、調味料も島内でまかなうことができるので、今後はさらにカスタマイズされた



元助産師のお屋敷をリノベーションした、朱色の塙が印象的な宿「わたなみ」。



プランを増やしたいと取組みを進めています。お客様の好みに合わせ、他では体験できないような対応ができるのも島のネットワークがあればこそです。

集客も広く浅くではなく、口コミで広がるようなコアなファンを確実に増やしていきます。リピート率100%を目指し、他ではできないサービスで満足していただけるようあらゆる面から受入体制を整えています。

留学を行い、外から香川県の良さを再認識することができました。また、世界的な視野でものを見ることも目覚め、世界の流れを香川県に持ち帰り、事業を展開したいと思うようになりました。その経験や思いがあるからこそ、世界の変化を取り入れながら事業展開を考えることができるのも強みだと感じています。そして、宿として受け入れる側だけではなく、海外を旅する人の気持ちにも寄り添えると思っています。

「香川県ビジネスチャレンジコンペ2025」で最優秀賞を受賞された取組み内容について教えてください。

「香川県ビジネスチャレンジコンペ2025」で最優秀賞をいただいた



忙しい日々を忘れ、ゆっくりと流れる時間を楽しむ空間を提供する宿「間 はざま」。



ビジネスモデルを一言で言えば、当社が出資し宿泊施設を造るのではなく、出資者を外部から募るものです。出資者が宿泊する権利を持つことにより必然的に島を訪れ続けることとなります。ご自身の別荘のように愛し、出資者やその周辺の人々が毎年訪れ続けてくれれば、魅力的な関係人口を増やすことにつながります。

出資者による施設の利用は合計しても一カ月に満たないことが大半と見込まれるので、それ以外の日をホテルとして貸し出し、収益化します。運営は当社が責任を持って行い、運営の経費はそこから生み

出します。出資者にとつては、維持管理などの負担は全く生じず、宿泊料などの利益を得ることができシステムです。そのためには、運営の手腕が必要ですが、当社には、これまで10年ほど宿泊施設の運営を手掛けてきたノウハウと、培ってきた人的ネットワークがあります。PRが得意な人、集客が得意な人、その力を借りながら宿として成功させていくことが何よりも重要と考えています。

特に力を入れている取組みや今後の展開を教えてください。

島に関わり続ける方々を増やしていくため、まずは物件の数を増やすことに力を入れています。加えて、島は交通のインフラが十分でないため、その対策も検討しています。また、旅行者は海外の人々が多いので、その集客の仕組みをしっかり構築していきたいと考えています。

人材の確保にも力を入れています。お客様に対して質の高いサービスを提供したいと考えていますが、そういったサービスに従事した経験がある

即戦力となる人材を島内で確保することは大変です。もちろん、高松や東京から専門的な勉強や経験を重ねた人材を連れてくることも方法の一つではありますが、私は島の人々に誇りを持って働いていただきたいと願っています。高い評価を得て、10年後に共に感動したいので、島内での人材確保にこだわっていきます。島の人と一緒に創り上げていく島ならではのサービス、そこにこだわり奮闘を続けています。

施設としては今後、小豆島でまずは10棟、次に豊島での展開を考えています。

県や市町と連携したいことや要望をお聞かせください。

小豆島の行政の方は柔軟に対応してくださるので、とても感謝しています。今後さらに、いくつかの点での連携強化を期待しています。まず、可能ならば空き家や周辺の空き地情報を提供していただきたい。工事に来た方などから2週間ほどキッチン付きでリーズナブルに借りられる宿がほしいという声もありました。空き家はさまざまなことに

活用できると思います。

次に、土地に根ざし小豆島のことを熟知している人材を紹介していただければ、お客様に島ならではの歴史や風習、民話などをお伝えすることができます。また、AIによる同時通訳を活用すれば、海外のお客様にも楽しんでいただけます。

また、私が現在課題だと感じているのは、冬の観光です。島はどこでもそうではないかと思いますが、小豆島でも冬になると客足が遠のいてし

まい、長期に閉鎖する店舗も出てきます。その対策として、例えば、瀬戸内国際芸術祭の作品をなるべく多く常設展示して残すなど、冬の観光誘致に知恵や力を貸していただきたいと願っています。

そのほか、せっかくの絶景を誇る場所に、それを建てなくてもという業種の建物を見ると、旅館業を営む者として疑問を覚えます。観光という視点から考慮する都市計画も必要ではないでしょうか。



高尾 明香里 (たかお・あかり)

香川県出身(小豆島町在住)

1994年5月23日生まれ 31歳

- 2013年 3月 坂出高等学校 卒業
- 2017年 8月 トビタテ留学Japan マレーシア留学
- 2018年 3月 香川大学 卒業
- 2021年 9月 株式会社Japan Fruits 創業
- 2024年 1月 株式会社Zen 創業
- 2024年 6月 JCI青年版国民栄誉賞 受賞
- 2024年 9月 株式会社Japan Fruits
「香川県ビジネスチャレンジコンペ2024」最優秀賞 受賞
- 2025年 3月 株式会社Japan Fruits
中国経済産業局・四国経済産業局のJ-Startup WEST選定
- 2025年 9月 株式会社Zen
「香川県ビジネスチャレンジコンペ2025」最優秀賞 受賞
- 2026年 1月 株式会社Zen
中国経済産業局・四国経済産業局のJ-Startup WEST選定
現在に至る。

本社所在地 香川県小豆郡小豆島町蒲生字西風呂甲283番地2

PROFILE

自治トピックス Information

自転車への交通反則 通告制度(青切符)の 導入について

■道路交通法の改正

2026(令和8)年4月1日から
自転車の一定の交通違反に、交通
反則通告制度(いわゆる青切符制度)
が適用されます。

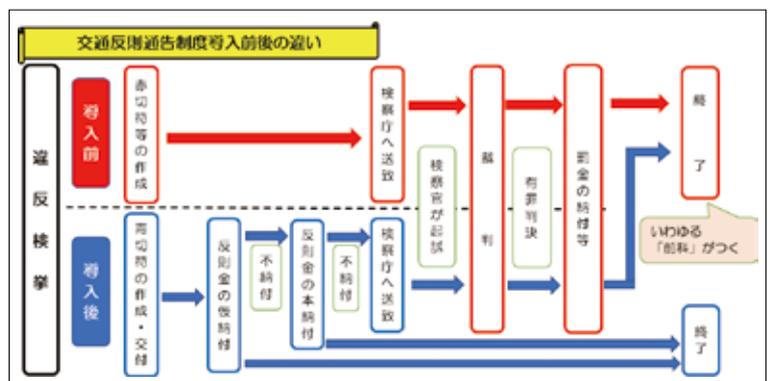
現在、自転車の交通違反を検挙
した際は、全て刑事手続(いわゆる赤
切符等)で処理するため、後日、検察
庁で取調べを受けて起訴され、裁判
で有罪となった場合は、罰金を納付
して前科も付くこととなります。

一方で、青切符制度が適用されて
いる車やオートバイの運転者が一定の
交通違反で検挙された場合は、期日
までに反則金を納付すれば、検察庁
での取調べや裁判を受けることも
なく、前科も付かないため、自転車の
交通違反者は、車やオートバイの交通
違反者と比べて時間や手続等の負担
が大きいものとなっています。

そこで、自転車の交通違反者が
受ける負担を軽減する等の目的で、
自転車の交通違反にも青切符制度
が適用されることになったものです。

ただし、酒気帯び運転など重大な
違反等の場合には、刑事手続で処理
したり、途中から刑事手続に切り
替わったりすることがあります。

青切符制度が適用されることに
より、検挙後の手続は大きく変わ
りますが、自転車の交通違反に対する
「指導警告が基本」、「交通事故の



原因となるような悪質・危険な違反
は検挙」という考え方は、現在と
変わりません。

■交通反則通告制度の適用範囲

青切符が適用される対象者は、
16歳以上の自転車運転者です。

これは、交通ルールに関する基本的
な知識があり、青切符制度の手続を
理解できる年齢の者を対象とする
ことが適切であるとの考えから、原付
免許や普通二輪免許を取得すること
ができる年齢等を踏まえて対象者の
年齢が決まったものです。

なお、14歳以上16歳未満の場合
は、これまでどおり「赤切符」で処理
します。

■自転車運転者講習

14歳以上の自転車運転者が、3年
以内に信号無視等の交通違反で2回
以上検挙された場合、自転車運転者
講習を受講しなければなりません。

■自転車の通行区分

自転車は、「車道通行が原則」です
が、13歳未満の子どもや70歳以上
の人等のほか、左記の標識が設置され
ている場合は、歩道
を通行することができます。
ただし、
「歩道は、歩行者が
優先」です。



■自転車用ヘルメットの着用

自転車乗車中に亡くなられた約
6割の方が頭部に致命傷を負って
いること等を踏まえ、自転車乗車時
のヘルメット着用が努力義務化されて
います。命を守る
ため、自転車用
ヘルメットを着用
しましょう。



※詳しい自転車のルール等を知り
たい方は、下記の二次元コード
から「自転車ルールブック」を
ご確認ください。



香川県警察
シンボルマスコット
「ヨイチ」

香川県警察本部交通部
交通企画課
課長補佐 山本 健一

2026(令和8)年4月1日から自転車の
交通違反に交通反則通告制度(いわゆる青
切符制度)が適用され、検挙された後の手続が
大きく変わります。

16歳以上の自転車運転者の交通違反に
「青切符制度」
が適用されます！